# 令和３年度
# 千葉県市町村歯科衛生士業務研究集

千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」

令和４年２月

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

# はじめに

歯・口腔は、おいしく、楽しい食事をするため、またコミュニケーションをとるためにきわめて重要な役割を果たしています。歯・口腔の健康づくりは、身体全体の健康を維持し、質の高い生活を実現していく上で、大変重要であり、健康寿命の延伸につながります。そのためには、歯の喪失を防止し、自分の歯でしっかりと噛んで食べることができる口腔機能を維持することが重要となります。

県では、これまでのむし歯や歯周病等の予防対策に加え、オーラルフレイル対策や高齢者の低栄養防止対策を推進し、県民の健康寿命の延伸を図るよう取り組んでいます。

また昨年度から、未就業の方に加えて、既に就業している歯科衛生士の方に対しても、継続的に研修を受けることができる場を提供することで、資質向上や離職の防止を図るために、スキルアップすることができる事業をスタートさせたところです。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、アフターコロナに向けて、地域の歯・口腔の健康づくりを推進している市町村歯科衛生士の皆様による日々の活動成果を「令和３年度千葉県市町村歯科衛生士業務研究集」にとりまとめました。

本冊子が、今後の歯科保健活動に活かされ、千葉県の歯科保健の充実につながることを心から期待しております。

令和４年２月

千葉県健康福祉部健康づくり支援課
課　長　　井　本　　義　則

# 目　次

１　新型コロナウイルス感染症拡大前後における
１歳６か月児健康診査時の口腔衛生習慣の違いについて
習志野市 ･････････････････　１

２　新型コロナウイルス感染症流行下における
健口体操を広める自主グループの活動について
市原市　･････････････････　６

３　コロナ禍における３歳児の生活及び口腔衛生習慣について　－第二報－
船橋市　･････････････････　１４

# 新型コロナウイルス感染症拡大前後における
# 1歳6か月児健康診査時の口腔衛生習慣の違いについて

習志野市　○伊藤 有花　林 睦代　鈴木 はるひ

## Ⅰ　はじめに

令和2年3月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により、本市では様々な歯科保健事業が中止や延期となった。本市の1歳6か月児健康診査においては、1歳7か月～2歳未満児を対象に、身体計測、歯科集団指導、歯科健康診査、問診、その他相談（心理・栄養・保健）を集団方式で実施していたが、感染症拡大により令和2年3月～8月まで中止となった。中止期間の対象児には、地区担当保健師による電話問診を実施し、同年7月から、対象年齢を3歳未満児までに拡大して、中止期間の対象児の歯科健康診査のみを再開、9月からは歯科健康診査、問診、その他相談のみに内容を変更し、全体の健康診査を再開した。歯科健康診査の結果においては、表1に示すとおり、本市のう蝕罹患率は、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度は0.3%であったのに対し、令和2年度は0.9%と急増した。さらに、対象年齢を元年度と同一とする令和3年度においても、10月時点で1.0%と高い割合となっている。

そこで、本市でう蝕が増加した背景について、1歳6か月児健康診査受診者の健診結果及び問診項目から、う蝕罹患状況や口腔衛生習慣を分析し、感染症流行下の乳幼児期のう蝕予防対策を検討することを目的とする。

## Ⅱ　方法

1　対象者　各年度4～10月に受診した1歳7か月～2歳未満児とする。

（1）令和元年度の1歳6か月児健康診査受診者749人（以下、元年度群）

（2）令和3年度の1歳6か月児健康診査受診者736人（以下、3年度群）

2　検証方法

元年度群と3年度群の1歳6か月児健康診査時に回収した問診票から、以下の歯科健康診査結果及び問診項目について比較分析を行った。統計解析は、EZR [1)]を用いて、Fisherの直接確立検定又はχ二乗検定にて行った。事後検定としてBonferroni法による多重比較検定を行い、危険率は0.05とした。なお、倫理的配慮として、結果集計に際し、個人が特定されないよう配慮した。

表1　1歳6か月児健康診査う蝕罹患率（千葉県・習志野市）　（単位:%）

| 区　分 | 平成28年度 | 29 | 30 | 令和元 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|
| 千　葉　県 | 1.4 | 1.2 | 1.2 | 1.0 | 1.1 |
| 習　志　野　市 | 0.4 | 0.7 | 0.4 | 0.3 | 0.9 |

【歯科健診結果】
　う蝕の有無
【問診項目】
（1）哺乳ビンを使っていますか（はい、いいえ）
（2）母乳を飲ませていますか（はい、いいえ）
（3）おやつの回数は何回ですか
　（1 日に 0 回、1 回、2 回、3 回、決まっていない）
（4）歯磨きについて
　（子どもが磨いた後、保護者が仕上げ磨きをしている/子どもが自分で磨かずに、保護者だけで磨いている/子どもだけで磨いている/子どもも保護者も磨いていない）
（5）むし歯予防でフッ化物を活用していますか。（はい、いいえ）

## Ⅲ　結果

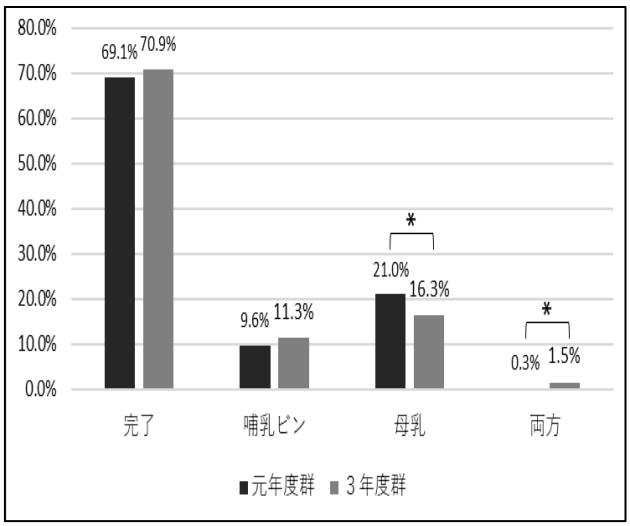
1　歯科健診結果

　う蝕の有無について、「う蝕あり」の人は、元年度群 0.4％と比較し、3 年度群は 1.0％と 0.6 ポイント増加したが、有意差は認められなかった。

2　問診項目

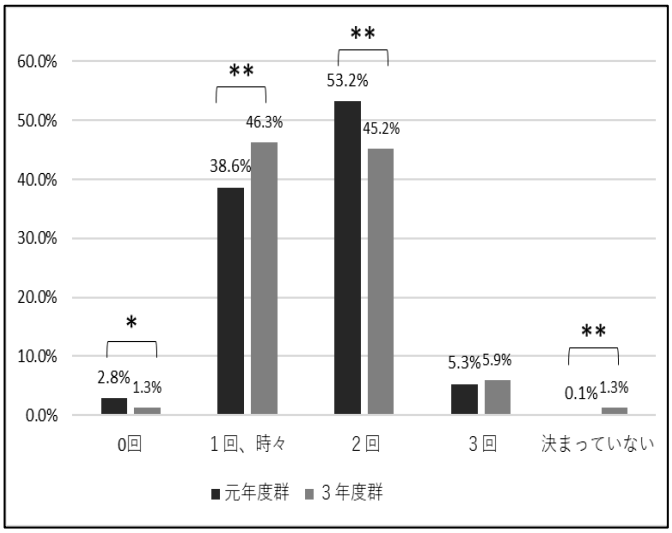
（1）卒乳状況についての質問「哺乳ビンを使用していますか・母乳を飲ませていますか」に対する回答を図 1 に示す。「母乳を飲ませていますか」に「はい」と答えた人は、元年度群 21.0％と比較し、3 年度群は 4.7 ポイント減少し、有意差が認められた。一方、「哺乳ビンを使用」と「母乳を飲ませている」の両方に「はい」と答えた人は、元年度群 0.3％と比較し、3 年度群は 1.2 ポイント増加し、有意差が認められた。

（2）間食回数についての質問「おやつの回数は何回ですか」に対する回答を図 2 に示す。元年度群と比較し、3 年度群は「0 回」が 1.5 ポイント、「2 回」が 8.0 ポイント減少し、「1 回、時々」が 7.7 ポイント、「決まっていない」が 1.2 ポイント増加し、有意差が認められた。




＊：p<0.05

図 1　卒乳状況



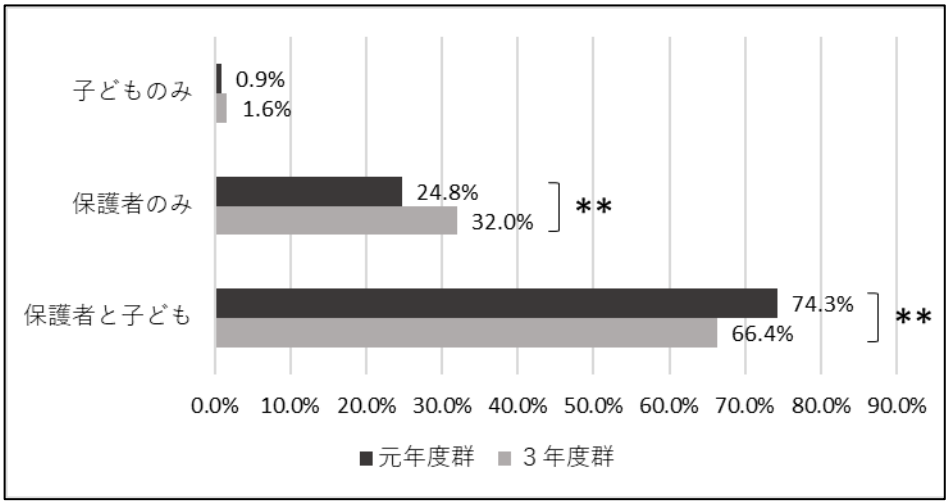

＊：p<0.05　＊＊：p<0.01

図 2　間食回数

（3）質問「歯磨き」について、「仕上げ磨きの実施の有無」を比較した。「子どもが磨いた後、保護者が仕上げ磨きをしている」及び「子どもが自分で磨かずに、保護者だけで磨いている」と回答した人は、元年度群 99.1%、3 年度群 98.4%であり、有意差は認められなかった。

（4）質問「歯磨き」について、「歯磨きの実施者」について図 3 に示す。元年度群と比較し、3 年度群は「保護者のみ」が 7.2 ポイント増加、「保護者と子ども」が 7.9 ポイント減少し、有意差が認められた。

（5）質問「むし歯予防でフッ化物を活用していますか」について、「はい」と回答した人は、元年度群 74.1%、3 年度群 78.4%と元年度群と比較して 4.3 ポイント増加したが、有意差は認められなかった。




＊：p<0.05 ＊＊：p<0.01

図 3　歯磨きの実施者

## Ⅳ　考察

習志野市の 1 歳 6 か月児歯科健康診査の受診率は令和元年度 93.4%、3 年度（4 月～10 月時点）94.1%となっており、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症拡大による健康診査の受診控えが懸念されたが、現時点では例年並みの受診率となっている。う蝕罹患率については、今回の調査で比較した 3 年度群において、う蝕罹患率は増加していたが、有意差は認められなかった。

乳歯のう蝕の要因[2)]は、哺乳ビンにジュースを入れて与えること、卒乳時期が遅いこと、保護者による歯磨きの開始時期が遅いこと、フッ化物配合歯磨剤の利用開始時期が遅いこと等があげられる。今回の調査では、1 歳 6 か月児健康診査の問診票の回答から、3 年度群は（1）「哺乳ビンの使用と母乳の継続」、（2）「おやつの回数が決まっていない」と回答した者の割合が有意に高かった。間食回数については、「0 回」の人が元年度群に比較して減少しており、全体的に間食を摂る児が増加した結果となった。このことから、3 年度群のう蝕が増加した要因として、「卒乳状況」と「間食回数」が関連していることが推察された。なお、う蝕が増加した要因については、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛等で、生活習慣も変化していることが考えられ

るが、今回の調査では、その関連性について詳細な分析を行っていない点に留意する。

一方、(3)「仕上げ磨き」の実施状況については、元年度群と 3 年度群で有意差は認められなかったが、(4)「歯磨きの実施者」を比較すると、3 年度群は「子どものみ」が 0.7 ポイント高くなっており、仕上げ磨きを行っていない家庭が増加している傾向がみられた。また、顕著であったのは、歯磨きの実施者が「保護者のみ」が 7.2 ポイント増加している点である。習志野市では、妊娠期から乳幼児期にかけて、様々な場面での歯科保健指導を行っている。特に全対象児に行っている「10 か月児健康相談」では、集団健康教育を実施し、歯磨き実習をとおして、子ども自身に歯ブラシを持たせ自分でみがく力を育てる大切さや、歯が生えたら毎日の仕上げ磨きを行うこと、哺乳ビンう蝕、フッ化物の活用等について情報提供を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、令和 2 年度から事業が中止となっている。

佐藤ら[3)]は「10 か月児のう蝕の関連要因が 1 歳 6 か月児う蝕に及ぼす影響」について、10 か月児健康診査時点での「間食回数」「砂糖を含む甘味飲料水」や、保護者の「歯の清潔に注意している」意識が 1 歳 6 か月児のう蝕に影響を与えることを明らかにしている。また、川口[4)]は「保健所の歯科保健事業への参加と 3 歳児のう蝕罹患についての研究」において、1 歳 6 か月児以前の時期から歯科保健事業へ参加する回数の多少が、3 歳児のう蝕の予防や減少に影響を及ぼすことを示唆している。

今回の調査では、1 歳 6 か月児健康診査受診者を対象としているが、歯科保健指導の場の減少は、乳幼児期の歯科保健に関する正しい知識の欠落や、保護者の歯科保健に対する意識・関心の低下により、う蝕の増加や歯磨き習慣が定着しない等の歯科保健行動に影響が生じていることが推察される。

これらの課題を解決するために、現在本市では、ホームページに教育媒体の掲載を行う等、代替できる方法で情報提供を行っている。今後は、乳幼児期のさらなるう蝕予防対策の一つとして、既存事業「歯みがき教室」の充実を図りたいと考える。「歯みがき教室」は、歯科衛生士による小グループ相談で、効果的な歯磨きの仕方や生活習慣等、育児に関する指導を行い、乳歯のう蝕予防を図ることを目的として実施している。10 か月児健康相談事業の中止を受けて、低年齢児からの相談機会を確保するため、歯みがき教室の対象年齢の拡大、参加しやすい会場の設定、事業の周知方法等について検討し、感染症流行下の乳幼児期のう蝕予防につなげたいと考えている。

## Ⅴ　まとめ

本市の 1 歳 6 か月児健康診査のう蝕罹患率は、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度は 0.3%であったのに対し、令和 2 年度は 0.9%と急増し、令和 3 年度 10 月実施時点においても 1.0%と増加傾向にある。う蝕罹患率の増加について有意差は認められなかったが、う蝕が増加した背景については、令和元年度と 3 年度の 1 歳 6 か月児健康診査受診者の健診結果及び問診票項目から、「卒乳状況」、「間食回数」、「歯磨きの実施者」に有意差が認められた。今回の調査では、口腔衛生習慣が変化した要因について詳細な分析は行えなかったが、保護者に対して乳幼児期のう蝕予防に関する情報発信をこれまで以上に行う必要があることがわかった。今後、既存事業を活用

し支援体制を充実する等、感染症の流行期における乳幼児期のう蝕予防対策を行いたいと考える。

## Ⅵ　文献

1) Kanda Y. Investigation of the freely-available easy-to-use software “EZR” (Easy R) for medical statistics. Bone Marrow Transplant. 2013:48,452-458.
2)相田 潤.子供のむし歯の特徴と有病状況. 厚生労働省,e-ヘルスネット〔情報提供〕. https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/teeth/h-02-002.html.
(アクセス 2021 年 12 月 15 日)
3)佐藤公子,小田慈,下野勉.10 か月児のう蝕の関連要因が 1 歳 6 か月児う蝕に及ぼす影響について.小児保健研究.2008;67:89-95
4)川口陽子.乳幼児の歯科保健指導の有用性に関する研究―保健所の歯科保健事業への参加と 3 歳児のう蝕罹患について―. 口腔病学会雑誌. 1991 ; 58 : 650-669.

# 新型コロナウイルス感染症流行下における健口体操を広める自主グループの活動について

市原市　○江口 佳奈　髙澤 みどり

## Ⅰ　はじめに

平成 21 年 2 月、市の健康づくり教室を卒業した有志による健口体操を広める自主グループ「いちはら歯っぴい 8020 応援隊（以下「応援隊」という）」が結成された。令和 2 年度までの活動回数は 12 年間で計 690 回、延べ 3 万人以上に対し健口体操を広める出前講座「歯つらつ応援教室」を開催している。また、応援隊は平成 24 年度に健康づくりの団体や他の自主グループと共に、健康なまちづくりを推進する「いちはら健康大使」に任命された。

結成から 10 年以上経過した応援隊は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、一時的な活動休止はあったが、感染予防対策をした上で活動を継続している。

本研究は、応援隊が新型コロナウイルス感染症の流行の中、活動や活動意欲に関してどのような変化があったか明らかにすることにより、今後の活動の参考にすることを目的とする。

## Ⅱ　方法と対象

１．対象　応援隊に所属している２２名のうち令和３年度第３回定例会に出席した１８名

２．調査日時　令和３年１０月６日（水）

３．調査方法　無記名自記式質問紙を配布及び収集

４．調査項目

(1)活動年数
(2)前期（令和２年２月から８月）の活動意欲
(3)前期の活動の中で印象的だった出来事
(4)活動年数と前期の活動意欲における相関性
(5)後期（令和２年９月から令和３年８月）の活動意欲
(6)後期の活動の中で印象的だった出来事
(7)活動年数と後期の活動意欲における相関性
(8)前期から後期における活動意欲の変化
(9)新型コロナウイルス感染症流行下における情報共有や連絡の頻度について

なお、対象の年齢の内訳を表１、前期と後期の分け方は表２のとおりとした。無記名自記式質問紙を１２～１３頁に示す。

表１　対象者の年齢の内訳

| 区分 | 人数（人） |
|---|---|
| 60～69歳 | 2 |
| 70～79歳 | 16 |

平均年齢：71.8 歳

表２　前期と後期における分け方

| | |
|---|---|
| 前期 | 急速な新型コロナウイルス感染拡大に伴い、応援隊の活動が中止になり始めた時期から活動が再開し始めた時期まで |
| 後期 | 準備期間を含め、徐々に活動を再開した期間 |

## Ⅲ　結果

定例会の出席者全員から回答を得られた。

１．活動年数について

平均活動年数は８年であり、活動年数 13 年が６名と最も多かった。また、活動年数１年が３名であった（図１）。

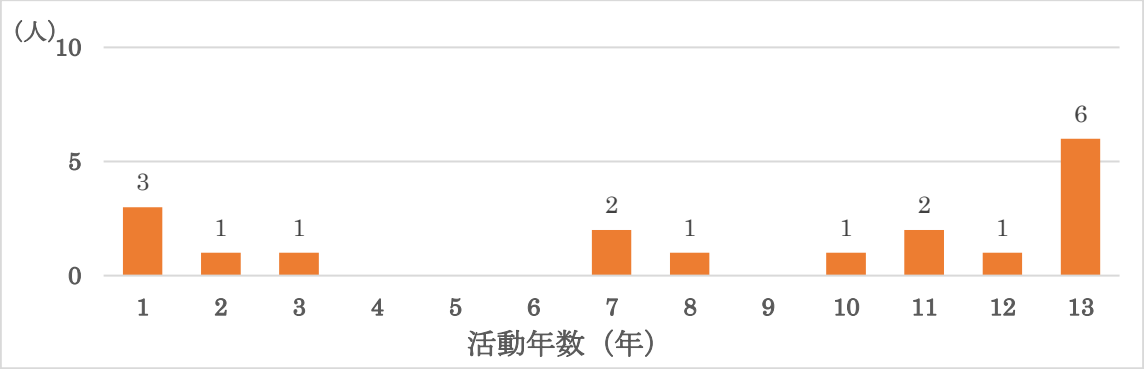



図１　活動年数

２．前期の活動について

（１）前期における活動意欲の平均は 72.9 点であった。また最高点は 90 点であり、最低点は 50 点であった。71 点から 80 点の点数が最も多かった（図２）応援隊としての活動年数と前期の活動意欲には正の相関性があり、活動年数が長い人の方が活動意欲は高い傾向にあり、活動年数が短い人の方が活動意欲は低い傾向にあった（図３）。

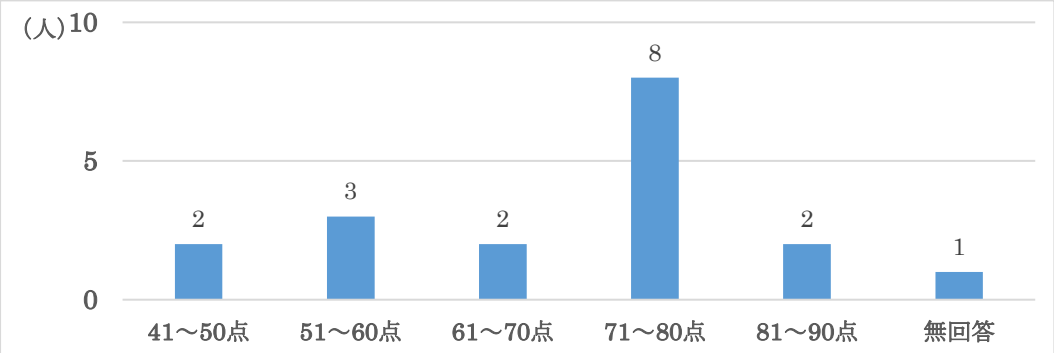



図２　前期の活動意欲

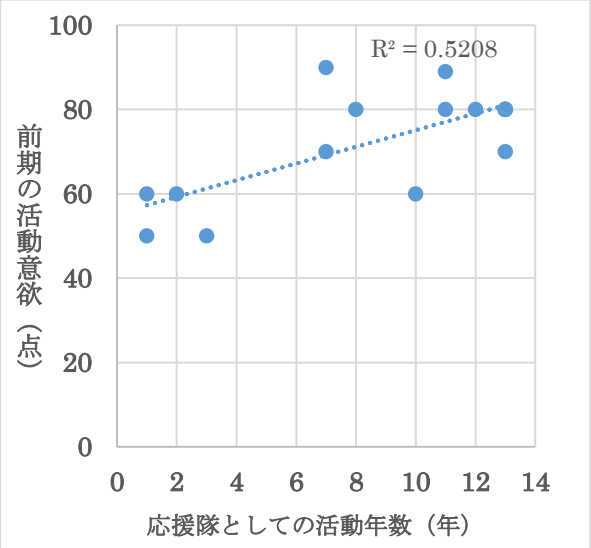



図３　活動年数と前期の活動意欲の相関性

（２）前期における活動の中で印象的だった出来事について、K 町交流会の中止が 12 名と最も多かった。次いで、健口体操 DVD の YouTube の公開が９名であっ　た。反対に、市民大学いちはら健康大使コースの中止、第１回定例会の中止は１名と最も少なかった（図４）。

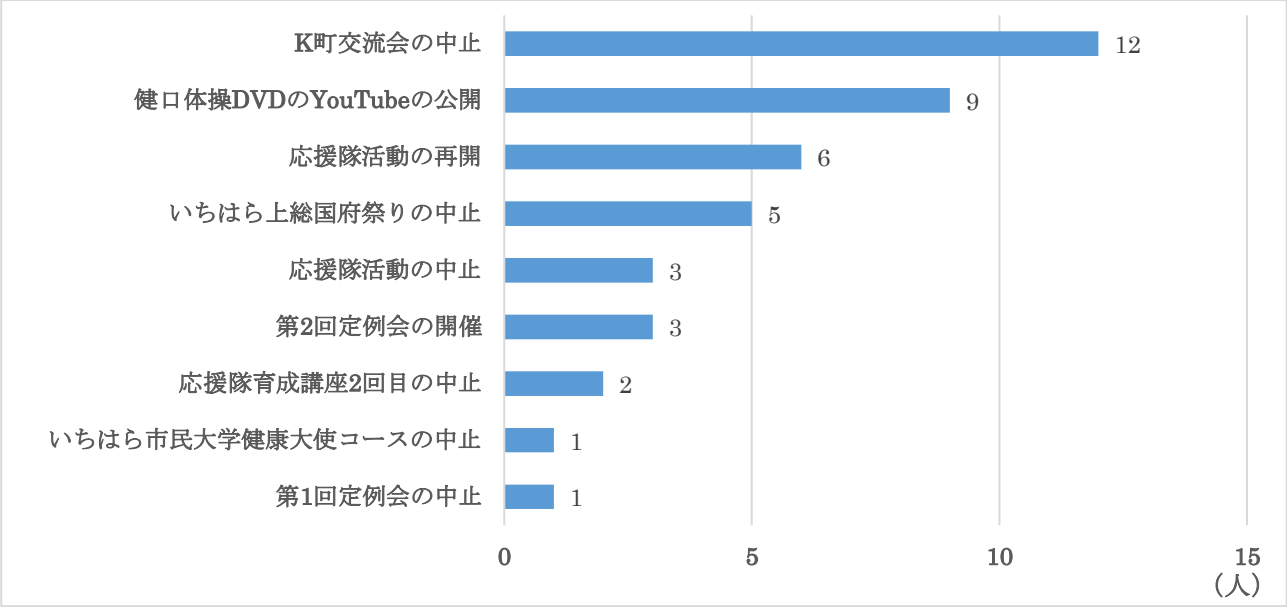



図４　前期の活動の中で印象的だった出来事（複数回答）

３．後期の活動について

（１）後期における活動意欲の平均は 62.8 点であった。また最高点は 100 点であり、最低点は 10 点であった。41 点から 50 点及び 71 点から 80 点の点数が最も多かった（図５）。応援隊としての活動年数と後期の活動意欲には正の相関性があり、活動年数が長い人の方が活動意欲は高い傾向にあり、活動年数が短い人の方が、活動意欲は低い傾向にあった（図６）。前期から後期における活動意欲の変化を見ると、活動意欲が減少または横ばいの人が多くみられた（表３）。

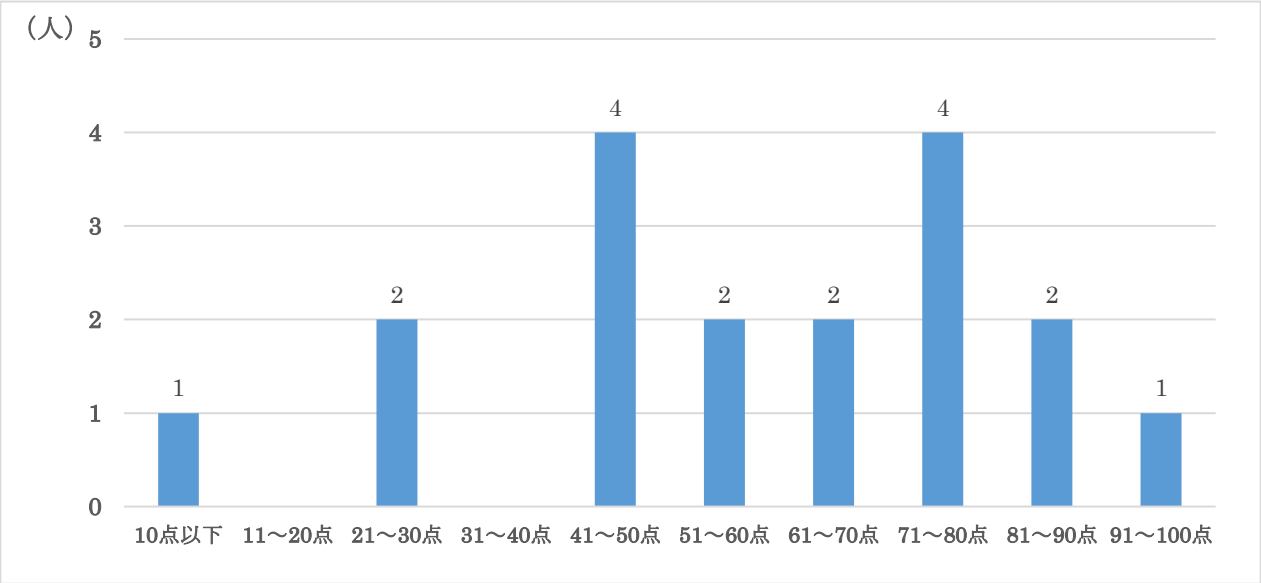



図５　後期の活動意欲

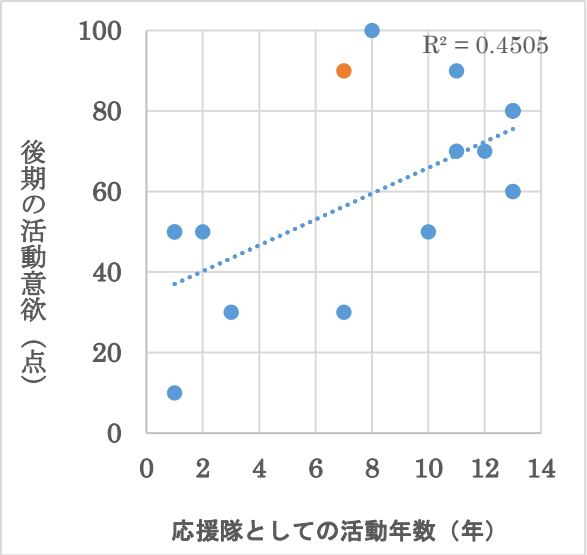



図６　活動年数と後期の活動意欲の相関性

表３　前期から後期における活動意欲の変化

| 前期 | 後期 | 人数（人） |
|---|---|---|
| 90点 | 90点 | 1 |
| 89点 | 90点 | 1 |
| 80点 | 100点 | 1 |
| 80点 | 80点 | 4 |
| 80点 | 70点 | 2 |
| 80点 | 60点 | 1 |
| 70点 | 60点 | 1 |
| 70点 | 30点 | 1 |
| 60点 | 50点 | 3 |
| 50点 | 50点 | 1 |
| 50点 | 30点 | 1 |
| 未回答 | 10点 | 1 |
| | 合計 | 18 |

（２）後期における活動の中で印象的だった出来事について、K 町交流研修会の開催の中止及び千葉県口腔保健功労団体賞の受賞が８名と最も多かった。次いで、美男美女養成講座の開催が７名と多かった。研修会の開催（R2 年度・R3 年度美男美女養成講座）や広報誌での周知も多く挙げられた（図７）。

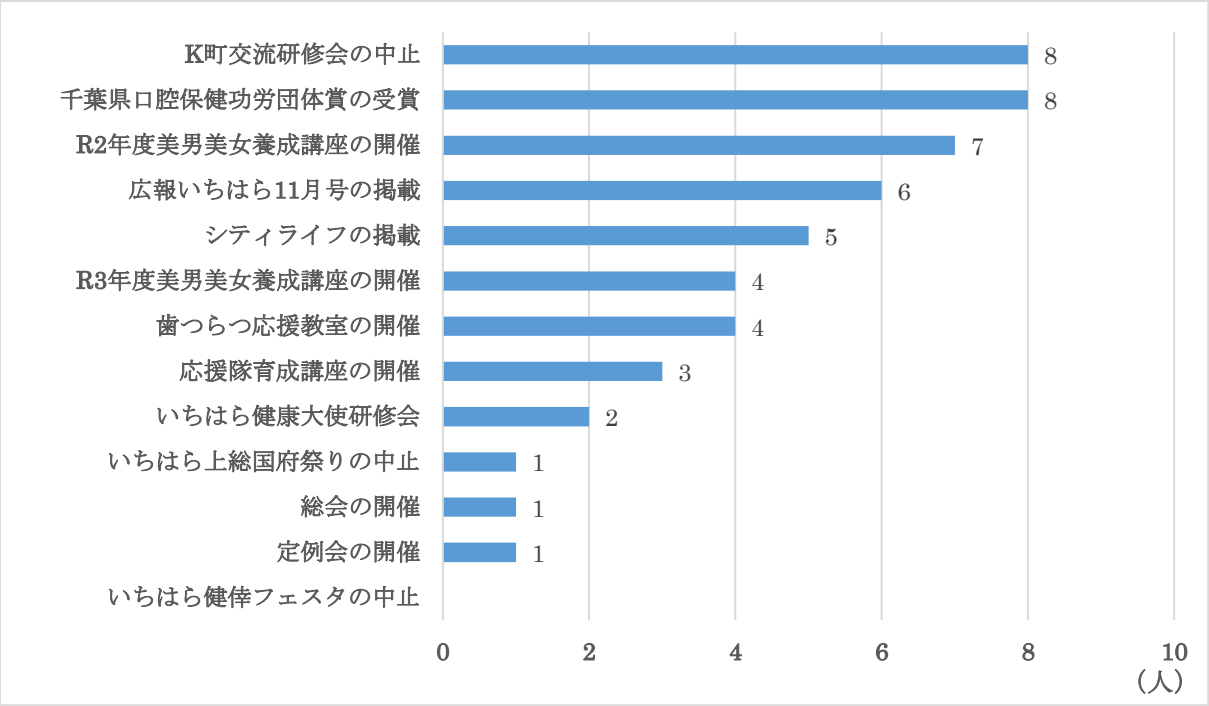



図７　後期の活動の中で印象的だった出来事（複数回答）

４．情報共有や連絡の頻度が増えたと回答した者はいなかった。連絡の頻度が減ったが 12 名、連絡の頻度が変化なしが４名だった（図８）。

連絡方法としては、スマートフォン等を用いたコミュニケーションアプリ（LINE）やメール、電話をすると回答した者が多かった（図９）。

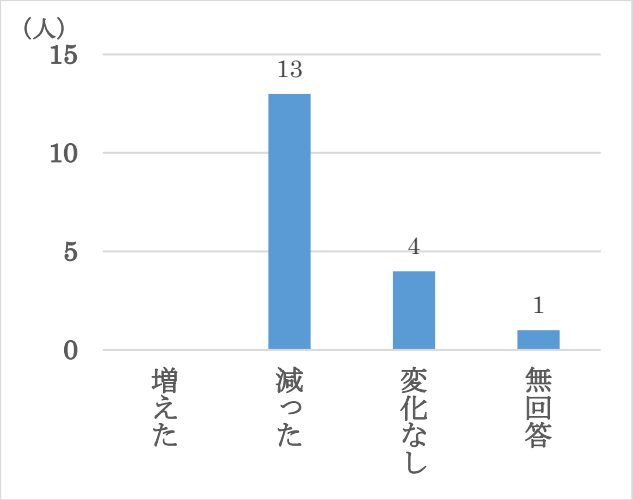



図８　新型コロナウイルス感染症流行下におけるメンバー同士の情報共有や連絡の頻度

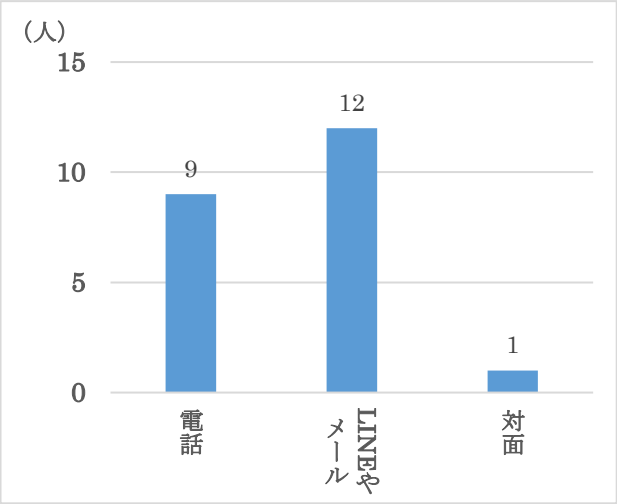



図９　メンバー同士の情報交換や連絡の手段

## Ⅳ　考察

前期と後期の活動意欲を比較すると平均 10.1 点減少しており、多くの人の活動意欲に減少傾向または横ばいの傾向が認められた。前期では活動意欲は 50 点から 90 点の中にあったが、後期では 10 点から 100 点の中にあり、個人によって活動意欲が大きく異なることがわかる。活動意欲と活動年数の相関性について、活動年数が短い人は後期において活動意欲の減少が顕著に認められた。このことについて、活動年数が短い人は活動経験が少ないため、新型コロナウイルス感染症流行下における活動に不安を抱き、活動意欲が減退してしまったのではないかと考えられるため、今後活動報告を行う定例会の場で、感染対策の上で活動に参加していた人の報告を聞くことであまり参加していない人も、活動に対して前向きになれるのではないかと思われる。

前期の活動意欲が高い数値であった理由として、新型コロナウイルス感染症の流行がここまで長引くとは想定できず、比較的早く活動が再開できると多くの人が思っていたのではないかと推測された。

また、前期には、急速な新型コロナウイルス感染症の流行のため、様々な事業やイントの中止に伴い応援隊の活動が休止となった。多くの人が印象に残った出来事として挙げていた「K 町交流研修会の中止」とは、年に１度応援隊の自己研鑽のために、他自治体のボランティア団体との交流を目的として行っているものである。中止になったことにより多くの人が残念に感じたのだと思われることから改めて、他団体との交流が活動意欲を高める要因ではないかと推察された。また、「健口体操 DVD の YouTube の公開」が印象に残ったと回答した人も多かった。これは第１回緊急事態宣言発令下（令和２年４月７日から５月 25 日まで）に、自粛期間においても自宅で気軽に健口体操をしてほしいという思いから、公開されたものである。この時期は活動休止期間にあたるが YouTube の公開を通して、応援隊として市民の健康づくりに携わる達成感があったのではないかと考えられた。

後期は、応援隊の活動休止期間を終え、徐々に活動を再開していった期間にあたる。この期間には新型コロナウイルス感染症に関する正しい対策方法が広まり、やみくもに事業を中止するのではなく、感染対策を行ったうえで活動を行う機会も増えていっ

た。また、研修会や会議等を必ず対面開催とするのではなく、オンライン（Zoom アプリケーション等）による非対面開催もされるようになった。しかし、「歯つらつ応援教室」の依頼数も新型コロナウイルス感染症流行以前には戻らなかったことが活動意欲の減少の要因になっているのではないかと考えられた。また、後期でも 2 年連続で中止となった「K 町交流研修会の中止」が印象的だったと答えた人が多かった。他自治体のボランティア団体との交流は新型コロナウイルス感染症流行下において実施は難しいが、活動意欲向上のためには、可能な限りの支援が必要である。また、「口腔保健功労団体賞の受賞」も印象的だったと答えた人が多かった。定期的に自分たちの活動が他者に認められ、評価されるということは、活動の継続における大きな要因である。

応援隊は平均年齢 71.8 歳と高齢であるため、主な連絡方法は電話や対面であると考えていた。そのため、定例会の中止等により他の人に会う機会が減少し、メンバー同士の連絡頻度は一時的に減少するものの、その後増加していくのではないかと予想した。結果、実際には連絡頻度が「減った」と回答した人が多かった。しかし、連絡方法として SNS（LINE アプリケーション等）という新たな連絡手段を活用していることがわかった。活動があまりできていない時でも、メンバー同士のつながりや活動意欲の維持・向上を目的とし、メンバー同士の連絡頻度を維持していく必要がある。

## V　結語

新型コロナウイルス感染症流行下においても、継続的な活動や他自治体のボランティア団体等との交流が応援隊に対し、大きな影響を与えているということがわかった。しかし、応援隊の活動は中止や延期を余儀なくされ、それに伴い活動意欲が減少している傾向が示唆された。今後、活動意欲を維持していくために、活動を中止とせずオンラインを活用した定例会や研修会等の開催も検討していきたい。

## 謝辞

本調査を実施するにあたり、御協力いただきました「いちはら歯っぴい 8020 応援隊」の皆様に心より御礼申し上げます。

# いちはら歯っぴい8020応援隊の活動に関するアンケート

今後の活動支援のため、新型コロナウイルス感染症の流行を通じた応援隊の活動状況の調査を行います。個人情報の保護に基づき、アンケートは厳重に保管いたします。

**◎あなたのいちはら歯っぴい８０２０応援隊（※以下、応援隊と表記）活動についてお尋ねします。**

**問１**　あなたの応援隊メンバーとしての活動年数　　＿＿＿＿**年**

**問２**　コロナ流行初期から現在までの活動について伺います。（新規入会者はわかる範囲で記入してください）

**【令和２年２月～令和２年８月】**

（１）この期間の活動意欲は100点中何点ですか。点数を整数で記入してください。

**0点**　50点　**100点**　　**点**

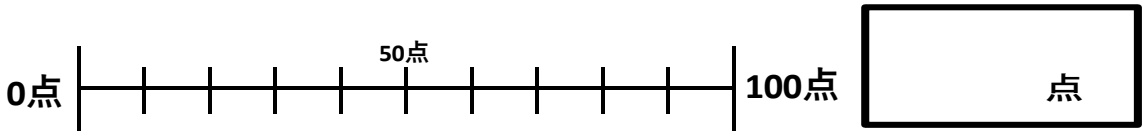
（２）応援隊の活動で印象的だった出来事、上位３つに〇を付けてください。
※令和２年２月～令和２年８月に中止が決まったものも含みます。

1. 令和元年度育成講座２回目の中止（令和２年２月26日）
2. 令和元年度鋸南町交流会の中止　（令和２年３月６日）
3. 令和２年度第１回定例会の中止（令和２年４月８日）
4. 令和２年度応援隊活動の中止（令和２年５月末まで）
5. 令和２年度応援隊活動の再開（令和２年６月から）
6. 健口体操DVDのYOUTUBEの公開（令和２年５月）
7. 令和２年度第２回定例会の開催（令和２年７月29日）
8. 令和２年度いちはら市民大学健康大使コースの中止（令和２年７月）
9. 令和２年度いちはら上総国府祭りの中止（令和２年10月３日）
10. 令和２年度健倖フェスタの開催（令和２年10月17日）

**【裏面もあります】**

**【令和２年９月～令和３年８月】**

（１）この期間の活動意欲は 100 点中何点ですか。点数を整数で記入してください。




（２）応援隊の活動で印象的だった出来事、上位３つに〇を付けてください。
※令和２年９月～令和３年８月に中止が決まったものも含みます。

1. 令和２年度美男美女養成講座の開催（令和２年 10 月２日）
2. 広報いちはら 11 月号の掲載（令和２年 11 月）
3. 令和２年度千葉県口腔保健厚労団体賞の受賞（令和２年 11 月 14 日）
4. 令和２年度いちはら健康大使研修会（令和２年 12 月９日）
5. 令和２年度・令和３年度歯つらつ応援教室への参加
（老人会、子育て会、噛ミング３０講座（小学校など））
6. 令和２年度鋸南町交流研修会の中止（令和３年２月 16 日）
7. 令和２年度定例会の開催（令和２年 10 月 28 日、令和３年３月 24 日）
8. 令和２年度いちはら歯っぴい８０２０応援隊育成講座の開催
（令和３年３月５日、令和３年３月 11 日）
9. 令和３年度総会の開催（令和３年４月 14 日）
10. 令和３年度美男美女養成講座の開催（令和３年７月 28 日）
11. シティライフの掲載（令和３年７月 31 日）
12. いちはら上総国府祭りの中止（令和３年 10 月予定）
13. いちはら健倖フェスタの中止（令和３年 10 月予定）

**問３**（１）コロナ流行下において情報共有や連絡の頻度に変化はありましたか。
１.増えた　　２.減った　　３.変化なし

（２）どのような方法で情報共有や連絡を行いましたか。
（　　）

アンケートは以上です！ありがとうございました。
市原市　保健センター

# コロナ禍における

# 3歳児の生活及び口腔衛生習慣について～第二報～

船橋市　○小嶋康世　髙石郁美　八木幸代　植田佐知子
吉野ゆかり　長友桃子　及川こずえ

## Ⅰ　はじめに

新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年2月27日に内閣総理大臣から学校等の全国臨時休業の要請が示された。その後4月7日に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき感染症緊急事態宣言が5月31日まで発令されてから、再度緊急事態宣言が発令されたことや千葉県まん延防止重点措置の対象地域となったこと、変異株が出現し若年層にも感染が広がるなど、令和3年度の現在も新型コロナウイルス感染状況は、感染者の増加や減少を繰り返している。

本市においても新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月より令和2年8月まで、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の集団での実施を中止していた。令和2年9月には感染予防対策を施して1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の集団健診を再開し、現在も継続して実施している。

令和2年度の本研究において、コロナ前の令和元年と令和2年度のコロナ禍における育児状況、生活習慣、口腔衛生習慣について現状の把握を行った。今回もコロナ禍が継続する中での経年変化を調査し、今後の歯科保健活動のため現状の把握を行った。

## Ⅱ　方　法

1.　調査対象

(1)　平成31年4月1日より令和元年6月30日の間（コロナ前）に、集団健診及び郵送にて回収された3歳児健康診査問診票1,199枚。

(2)　令和2年4月1日より令和2年6月30日の間（コロナ禍）に、郵送で回収された3歳児健康診査問診票1,346枚。

(3)　令和3年4月1日より令和3年6月30日の間（R３年）に、集団健診及び郵送にて回収された3歳児健診問診票1,088枚。

2.　調査方法

問診票から生活習慣、口腔衛生習慣の以下の項目について比較した。

(1)　甘い飲み物（ジュースなど）をよく飲みますか

(2)　おやつの回数は、1日何回ですか

(3)　保護者が、毎日、子どもの歯を仕上げ磨きしていますか

(4)　お子さんのかかりつけの歯科医師はいますか

(5)　お子さんのお母さんはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間はありますか

（6） お子さんのお母さんはお子さんとよく遊んでいますか
（7） お子さんのお父さんはお子さんとよく遊んでいますか
（8） お子さんのお父さんは、育児をしていますか
（9） 育児は楽しいですか
（10）お子さんはテレビや動画、タブレット、スマートフォン等を１日２時間以上みていますか
（11）寝る時間は何時ですか

コロナ前と令和３年を統計解析した。解析には、エクセルを用いてカイ二乗検定にて行い、危険率は 0.05 とした。なお、倫理的配慮として、結果集計に際し、個人が特定されないよう配慮した。

## Ⅲ 結 果

1. 「甘い飲み物（ジュースなど）をよく飲みますか」の回答を図１に示す。「はい」と回答する割合がコロナ前は 37.6%とコロナ禍では 4.4 ポイント減少し、R３年は更にコロナ前より 6.7 ポイント減少した。コロナ前とコロナ禍、コロナ前とR３年では、どちらも有意差が認められた。

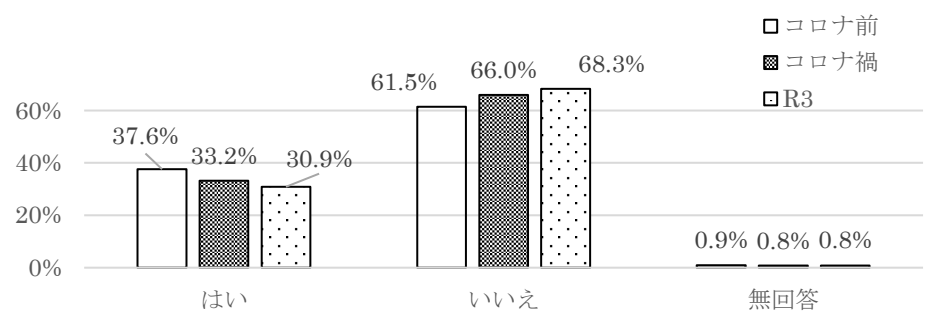


図1 甘い飲み物（ジュースなど）をよく飲みますか

2. 「おやつの回数は、１日何回ですか」の回答を図２に示す。コロナ前とコロナ禍では「3 回」と回答した者が 1.1 ポイント高く、有意差が認められた。R３年には、1.4 ポイント減少。「2 回」と回答した者も R３年はコロナ禍より 8.3 ポイント減少した。コロナ前とR３年では、有意差は認められなかった。

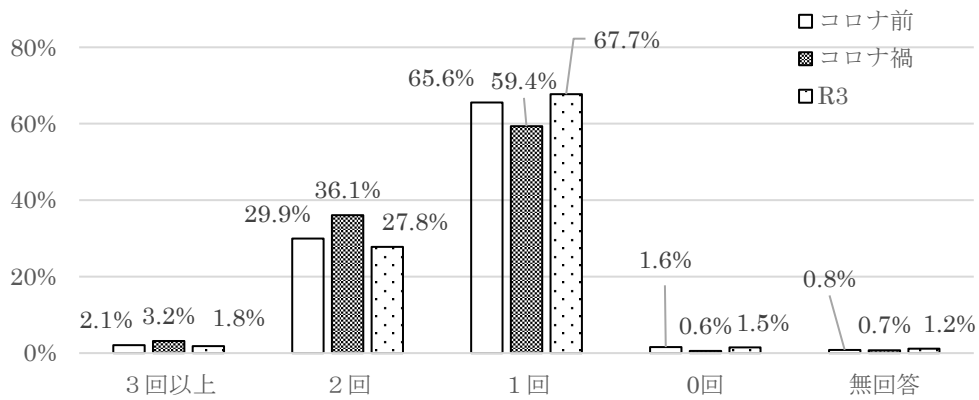


図2 おやつの回数は、１日何回ですか

3. 「保護者が、毎日、子どもの歯を仕上げ磨きしていますか」の回答を図３に示す。「子どもが磨いた後、仕上げ磨き」（グラフ上では「両方」とする）は、コロナ前とコロナ禍、コロナ前とＲ３年では、どちらも有意差が認められなかった。

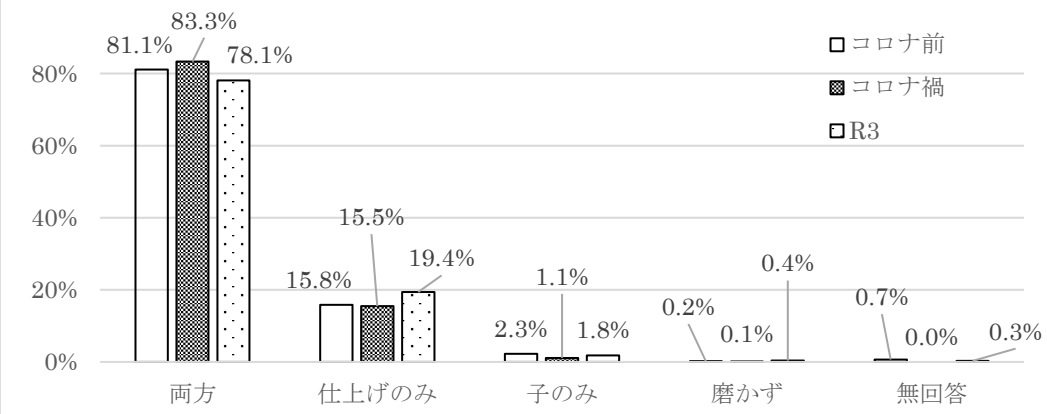



図3　保護者が、毎日、子どもの歯を仕上げ磨きしていますか

4. 「お子さんのかかりつけの歯科医師はいますか」の質問に対する回答を図４に示す。コロナ前とコロナ禍、コロナ前とＲ３年では、どちらも有意差が認められなかった。

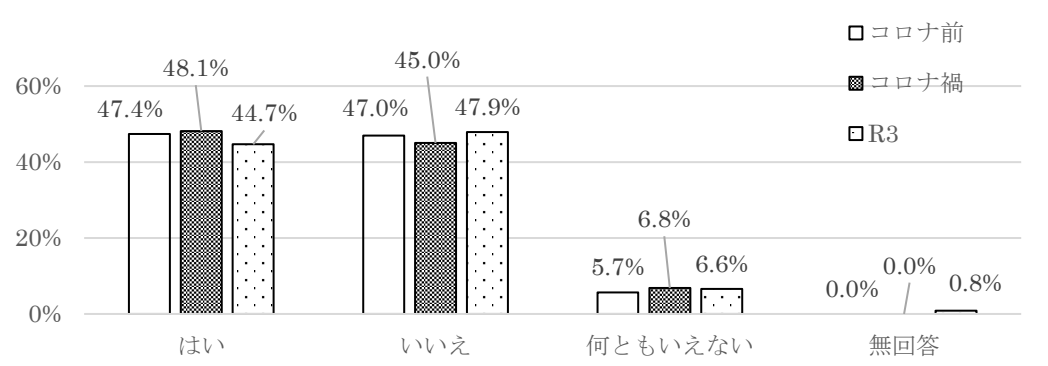



図4　お子さんのかかりつけの歯科医師はいますか

5. 「お子さんのお母さんはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間はありますか」の回答を図５に示す。「はい」と答えた者はコロナ前とコロナ禍では、コロナ禍の方が 6.7 ポイント高い値を示し、有意差が認められた。コロナ前とＲ３年は、有意差が認められなかった。

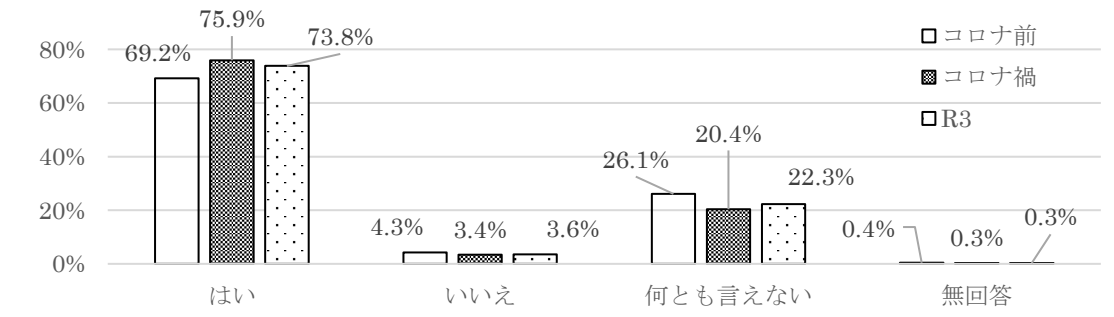



図5　お子さんのお母さんは、お子さんとゆったりした気分でお子さんと過ごせる時間はありますか

6. 「お子さんのお母さんはお子さんとよく遊んでいますか」の回答を図 6 に示す。「はい」と答えた者はコロナ前とコロナ禍ではコロナ禍の方が 4.9 ポイント高い値を示し、有意差が認められた。また、コロナ前と R３年は有意差が認められた。

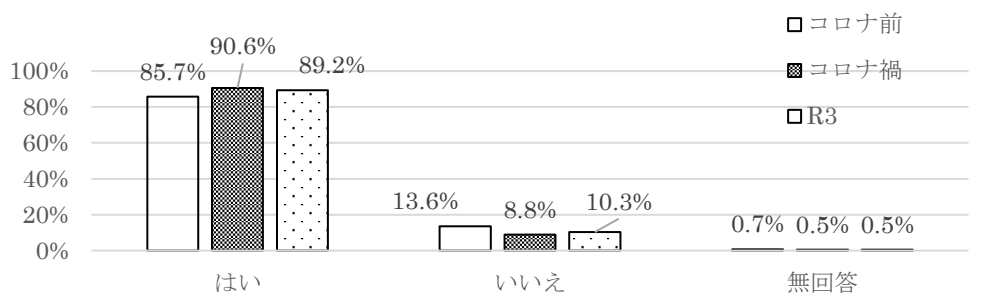



図6　お子さんのお母さんはお子さんとよく遊んでいますか

7. 「お子さんのお父さんはお子さんとよく遊んでいますか」の回答を図 7 に示す。「はい」と答えた者はコロナ前とコロナ禍ではコロナ禍の方が 4.2 ポイント高い値を示し、有意差が認められた。R３年はコロナ前と比べて「はい」と答えた者は 4.8 ポイント高く、有意差が認められた。

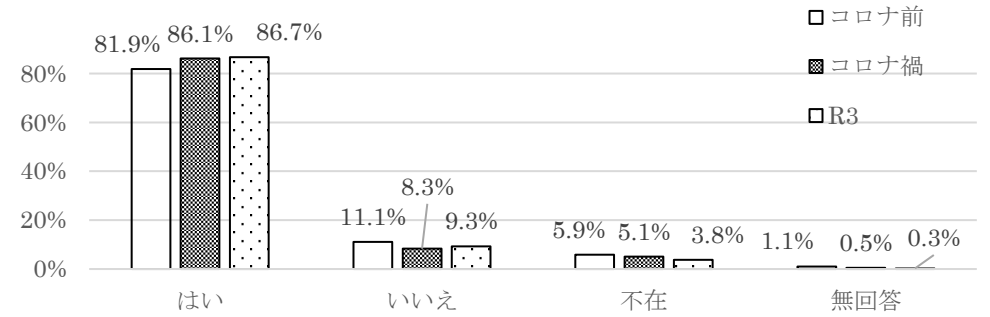



図7 お子さんのお父さんはお子さんととよく遊んでいますか

8. 「お子さんのお父さんは、育児をしていますか」の回答を図 8 に示す。すこやか親子ふなばし[1] より、積極的に育児をしている父親の割合が評価指標としているため、「よくやっている」と回答したものと、「時々やっている」「ほとんどしない」「何ともいえない」を「以外」とし、まとめた。

「よくやっている」と回答した者が、コロナ前とコロナ禍ではコロナ禍の方が 6.4 ポイント高い値を示し、有意差が認められた。また、R３年はコロナ前と比べて 9.8 ポイント増加し、有意差が認められた。

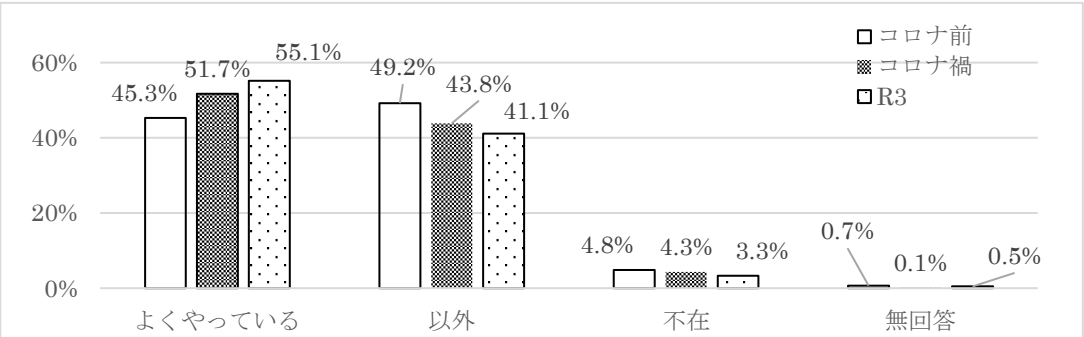



図8　お子さんのお父さんは、育児をしていますか

9. 「育児は楽しいですか」の回答を図 9 に示す。「はい」と答えた者はコロナ前とコロナ禍ではコロナ禍の方が 2.1 ポイント高いが、有意差が認められなかった。また、R３年はコロナ前と比べて 0.2 ポイント増加し、有意差は認められなかった。

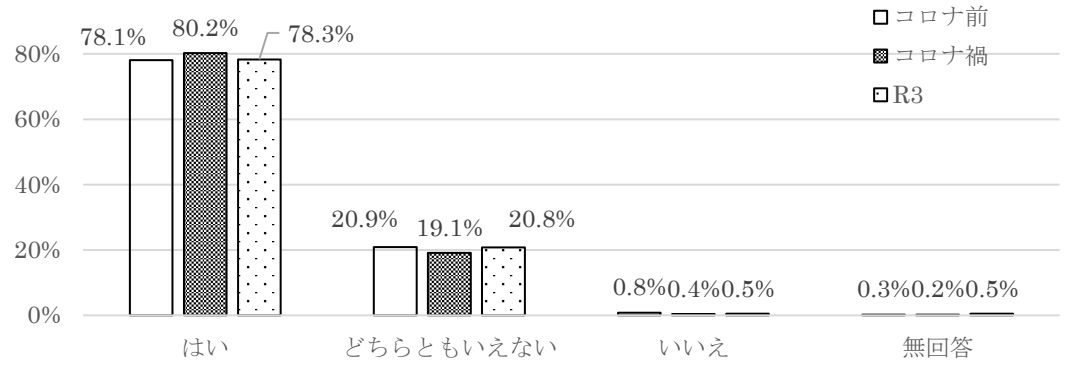


図9　育児は楽しいですか

10. 「お子さんはテレビや動画、タブレット、スマートフォン等を 1 日 2 時間以上みていますか」の質問に対する回答を図 10 に示す。2 時間以上テレビや動画等を見ている者は、コロナ前とコロナ禍ではコロナ禍の方が 9.6 ポイント高い値を示し、有意差が認められた。また、R３年はコロナ前と比べて 2.1 ポイント減少し、有意差が認めらなかった。

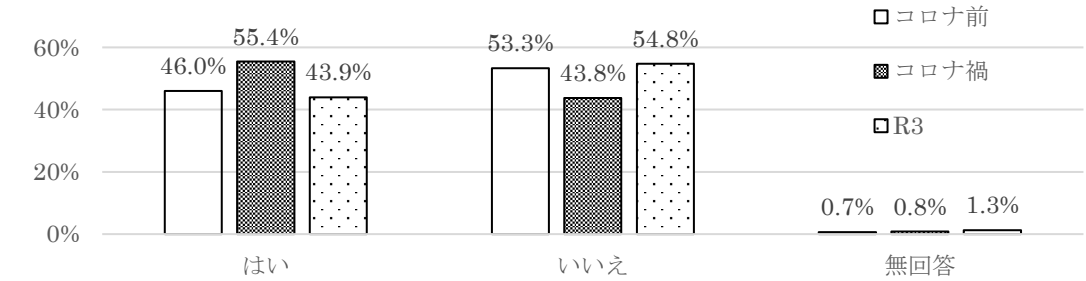


図10　お子さんはテレビや動画、タブレット、スマートフォン等を
２時間以上みていますか

11. 「寝る時間は何時ですか」の回答を図 11 に示す。

寝る時間の回答は自由記載であるが、すこやか親子ふなばし[1] より 21 時頃までには就寝が規則正しい生活リズムとしているため、21 時以前と 22 時以降に振り分けた。22 時以降と答えた者の割合は、コロナ前とコロナ禍ではコロナ禍の方が 5.2 ポイント高い値を示し、有意差が認められた。また、R３年はコロナ前と比べると差がなく、有意差が認められなかった。

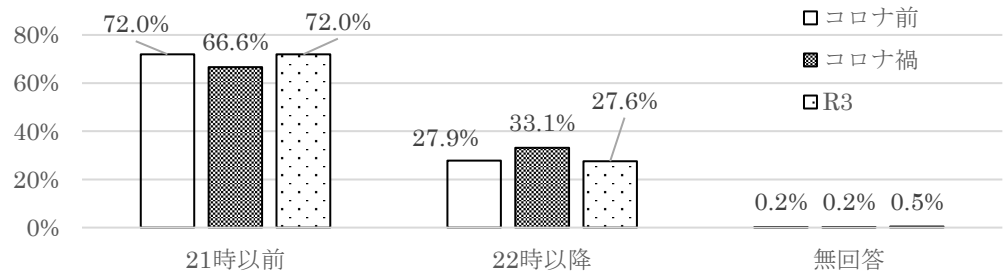


図11　寝る時間は何時ですか

## Ⅳ　考　察

第一報ではむし歯の多発につながる要因は多くみられなかった。今回、生活面ではテレビやスマホの閲覧時間が長くなり、就寝時間が遅くなる傾向が見られた。ウィズコロナの生活が続き、家で過ごす時間が増えることで、生活習慣や口腔衛生習慣が乱れていくことが予想された。しかし、令和２年の一回目の緊急事態宣言下では、間食の回数は増加がみられたが、感染対策を施しながら社会生活が送れるようになった令和３年には、間食回数はコロナ前の令和元年と同様の数値に戻っていた。また、令和元年から令和３年に継続して、甘味飲料の摂取頻度については減少していた。令和２年の学校等の休業要請や外出自粛により、家で過ごすことで間食回数は増えるものの、間食の内容で甘味飲料を選択することは控えていたのではないかと考えらえる。

甘味飲料の摂取頻度が減少していることから、健康に関する適切な選択はできていると考えられる。妊娠期や乳幼児期から正しい健康の知識や情報提供することが将来の健康へ繋がっていくのではないかと考えられる。

一方、コロナ禍は家で過ごす時間が増えることで、テレビやスマホの視聴時間の増加、寝る時間が遅くなるなどの生活パターンへの悪影響が見られていた。児の通園施設別では、保育園より幼稚園の方が、就寝時間が２２時以降の者、テレビやスマホの視聴時間が２時間以上の者の割合が増加した。保護者の生活の変化による影響を受けたと考えられる。

しかし、R３年は緊急事態宣言が発令されたものの学校等に休業要請はなく、子どもが家にいる時間が長時間に及ばないため、テレビやスマホの視聴時間や就寝時間への影響は少なかったと考えられる。

父親の育児参加や、両親の子どもへの関わりがコロナ前よりコロナ禍とR３年は増加傾向であった。「お子さんのお父さんは、育児をしていますか」の問いに、「よくやっている」と回答した者が、コロナ禍とR３年は増加しており、また、父母ともに、子どもとよく遊んでいると回答したものは、コロナ前よりコロナ禍、令和３年は増加していたことから、新型コロナウイルス感染症の拡大により、テレワークが増え、家族と過ごす時間が増えたこと[2)]が影響したと推察される。父親が一度育児に参加することで、子どもへの関わりわりがその後も継続しやすいのではないかと考えられる。

## Ⅴ　まとめ

令和２年のコロナ禍では、緊急事態宣言が発令され外出の自粛や学校等の休業の要請が出され、社会環境が大きく変化した。そのため、家にいる時間が長くなることでの生活環境に変化が生じると考えられたが、実際は歯みがき習慣には大きな変化はなかった。また、コロナ禍が長期化して感染予防対策を実施した生活にも慣れてきた令和３年では、学校等の休業はなく、生活リズムがコロナ前の令和元年に戻ってきている。

今後社会の動向について情報収集を行い、それに伴い影響してくる生活環境を把握し、状況に合わせて保健指導の内容や方法を変化させ、対応することが課題である。また、生活習慣が身につく乳幼児期に、正しい生活習慣を獲得できるように、情報提供を行っていきたい。

## Ⅵ　文　献

1）船橋市母子保健計画　すこやか親子ふなばし、令和２年３月
2）内閣府　第４回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査